

べっかい 議会だより

水源地の取水スクリーンを管理する職員
(毎週1回以上行われている)

特集

「平成26年度議会報告会」のご意見質問..... 2

別海町ふるさと交流館 指定管理へ10

町政のここが聞きたい.....12
一般質問 (中村・木嶋・瀧川の3議員)

シリーズ 志を受け継ぐ ㈱ウオーターエージェンシー かんの こういちろう 菅野孝一郎さん...20

72



2015.2.1
北海道別海町議会

～広聴により 協働のまちづくりを推進～

情報の共有と町民参加を図り、議会や町政に対する町民の意見や提言を広く聴く場として、議会報告会が開催されています。5回目となる本年度は、町内3か所で開催され、町民の参加者は全体で58名でした。各会場で出された質問と回答を項目別に要約して掲載します。また、各会場で寄せられたアンケートのご意見も合わせて掲載します。

議会関係

1 議員定数削減と議員報酬

質問

議員定数を減らすことは良いが、議員報酬を上げるのはどうなのか疑問だ。

答え

議員報酬については、以前から町民も含めて議論してきました。報酬の引き上げは、来年の5月より実施されます。全道的に見て報酬が低額であったため、議会でも慎重に検討してきました。別海

町特別職報酬等審議会では、全員一致で可決されたと聞いています。

質問

議員定数削減は地方自治の時代に反している。きめ細かいチェックを行うためには、現状のままではよかったです。

答え

議員定数等調査特別委員会で活発な議論がありました。16人に削減することでチェック機能が低下するのではないかと、いう厳しい意見もありましたが、16人の議員が

全力で職務を全うしていく所存です。

2 一般質問への答弁書事前配布

質問

一般質問に対する答弁の事前配布とはどのような内容か。

答え

議員の一般質問は文書で通告していますが、行政側からの答弁は、現在口頭で行っています。

質問と答弁の食い違いをなくし、奥深い議論をすることが目的です。今後検討していく課題の一つです。

福祉部関係

1 へき地保育園の今後は

質問

第6次総合計画で、

平成26年度議会報告会の参加者状況

	西春別	別海	尾岱沼	全体
参加人数	25名	19名	14名	58名



今回も熱心に町政について議論が展開された（別海会場）

本別海へき地保育園建替えが予定されていたが、現在見送られています。今後、へき地保育園についての制度がどのようになるのか。

答え

今までは、国・道からの財政支援で運営されていましたが、新制

度では、国の財政支援がなくなります。現在、町は国の動向を見ながらへき地保育園をどのようにするか検討中であり、27年度は今までどおりの保育料で続けていきます。

新制度への移行は平成28年度以降を予定しています。



平成26年度 議会報告会を開催

11月6日(西春別会場)・11月7日(別海会場)・11月10日(尾岱沼会場)

産業建設部関係

1 ふるさと交流館関係
指定管理について

質問

ふるさと交流館が指定管理になった経過について知りたい。

答え

昨年、町民の代表による検討会で、ふるさと交流館の今後のあり方について議論が重ね

られました。

検討委員会の議論や、

町民の残してほしいという要望などから、町

は指定管理で残す方向

で、コンサルタントに

指定管理料の試算を依

頼しました。

報告書では、入浴・

宿泊・宴会・レストラ

ンなど、全業務を行う

のが一番効率が良いと

の試算結果ができました。

それを受け、町から

議会に指定管理として
存続する旨の提案が出
され、慎重に審議を重
ね議決しました。

質問

(株)郊楽苑が指定管理
者となった経緯と内容
を知りたい。

答え

平成26年8月4日公
募。指定管理者選定委
員会の中で、応募のあつ
た3社について慎重に
審議した結果、(株)郊
苑を指定管理者候補と
して決定し、町に報告
されました。

議会は町からの提案
を受け、討論、採決を
行い、賛成多数で(株)郊
楽苑を指定管理者とし
て決定しました。

質問

指定管理料は年間3
265万円で、契約期
間は3年間です。

質問

選定委員会での選定
方法を知りたい。

答え

選定委員会
は8人で構成
され、1人2
00点、合計
1600点と
なっています。

最高点は9

60点。2位、

3位は895

点でした。

公の施設の

効用を最大限

発揮するとい

う項目で採点

に開きが出ま

した。その結果、得点

の高かった業者に決定

しました。

質問

指定管理を受けた業
者は契約違反をしてい
たのでは。

質問

選定委員会は慎重審
議が必要では。役場の
職員が関わるのは駄目
では。

質問

選定委員については、
規則を変更する必要が
あるのであれば、今後
検討し、町に対して提
言していきます。

見晴らしの良い2階にあるレストラン



量が入れ替えられ多目的に使われる和室

質問

検討委員会の意見が反映されていないのではないか。

答え

検討委員会としての結論はでませんでした。報告書が出され、案として指定管理も記述されていきました。

質問

老朽化で税金がどんどん使われる。工事は地元業者を利用し入札をきちんとして。

答え

ふるさと交流館については、10年間で2億2千万円余りの補修費用がかかるという保全計画が立てられています。

町民の意見を今後も反映できるようにしていきます。

質問

訴訟で町は負けたのか。

答え

契約に法律上不備があり、双方の弁護士に依頼し、契約書を作り直しました。

行政のプロが契約書のミスを何故したのか、議会として指摘してきました。

平成26年5月15日の段階で合意書を交わり、裁判にはなっていない。

質問

契約拒否の通知を出したにも関わらず、どうして同じ業者になったのか。

答え

契約拒否の通知は、現在の賃貸借契約に因っています。

指定管理の公募にあたっては、現在の契約者を排除しない形で

いました。

選考委員会で選定され、結果として現契約者に決定しました。

質問

議員は監視する立場としてしっかりチェックが必要。

答え

議会は議決したことを重く受け止め、今更以上に関わりを持ち、ご指摘の責任を果たして行きます。

不都合があれば、指定管理者を取り消しする事ができます。

指定管理になることで、チェックがしやすくなりました。

2 バイオマス関係

質問

家畜ふん尿は草地に還元するのが一番いい。余った分を発電に回すのが良いと考える。

答え

今後の酪農は環境に負荷をかけない経営が大切であり、環境に配慮した酪農を展開すべきです。

産業の委員会では、十勝で行っている家畜ふん尿の完熟堆肥を原料とした発電施設も視察してきました。

ふん尿処理の様々な方法を検討していきたいと考えています。

質問

平系地区に建設中のバイオガス施設について教えてほしい。

答え

● 出資は三井造船・別海町・JA道東あさひ・JA中春別。(三井造船株70%・町15%・農協15%)
● 建設費24億円。

● 平成27年2月中旬完成、3月試運転、7月本格稼働の予定となっています。

3 酪農経営を考える

質問

大型経営がいいとは限らない。小規模、中規模の経営の方が良いと考える。
どんどん投資して機械貧乏が再来するのではないか。

答え

離農戸数は昨年25戸、今年は今現在のところ11

戸となっています。

これまで、残った農家が近隣の土地を吸収して大型化してきました。

離農戸数は10年間で207戸ですが、新規就農は38戸です。

研修牧場卒業生はあまり大規模な牧場は好まない傾向があり、今後の課題として、検討していく必要があると考えています。



研修牧場で搾乳をする研修生の皆さん

**総務部
教育委員会関係**

1 野付半島避難タワー

質問

野付半島避難タワーの床までの高さ6・6mの根拠は何か。想定外の津波が来たらどうするか。

答え

津波ハザードマップ（道作成）の津波想定数値3・6mに余裕3mを見て、6・6mとしたとの説明を受けています。

ど、現在の学生に対する助成制度を拡充していくことが具体的に検討され、実施される予定になっています。

3 旧光進小中学校の利活用

質問

旧光進小中学校の利活用について、地元で十分な説明がなかった。活用されることは良いが、地元への説明をしながら進めてほしい。

答え

建替えについていつ頃予定されているのか。建替えの場所などの意見は出ているのか。

4 (仮称)生涯学習センター およびその他の施設

質問

今後、さらに地元と十分連絡などをとりながら進めます。

答え

朽化に伴い、建替えの時期が迫っています。（仮称）生涯学習センターとしての計画では、平成28年に実施計画、29〜30年には建設の予定です。

基本構想は策定されましたが、具体案は出ていません。市街地活性化計画と併せて立案されることとなります。

質問

建物はあまり大きくないもので、場所は市街地中心部がよいのではという話があった。それが「複合施設」ということで、大規模なものという話になってきている。しっかり検討していく必要がある。

答え

郷土資料館や給食センターの建替えも急務となっているため、これらを併設することを

質問

含め、多機能複合施設が課題として取り上げられています。建設に向け慎重に検討すべきとの意見が出ています。どういった補助制度が適用されるか、まだ決まっていない段階であり、現在検討が行われています。

全町から集まる規模

答え

のものとなれば、広い駐車場が必要で、市街地中心部では無理。目的をはっきりさせ、よく検討してほしい。どのような補助制度が使えるか、決まっています。決まった段階で具体化されていくことになると考えています。

2 別海高校の学級数減

質問

対策が遅すぎるのではないか。小中学生に別海高校のアピールなど対策が必要では。

答え

通学に対する補助な



昨年12月の低気圧により高潮被害を受けた別海漁協施設



老朽化により建替えが検討されている中央公民館

5 スポーツセンターの指定管理について

質問

スポーツセンターを指定管理者制にしたが、選定委員から役場職員を除外すべきでは。

答え

スポーツセンターの指定管理者制については、委員会としても慎重に調査しました。

選定委員については、規則を変更する必要があるのであれば、今後検討し、町に対して提言していきます。

質問

文化・スポーツ施設については直接町が責任を負うべきだと思っ

答え

町の直接管理だと人事の関係で職員が2、3年で交代します。民間に委託すると、時間をかけて人材育成



指定管理により専門性を高めた運営が期待されるスポーツセンター（温水プール内トレーニングジム）

できることと、地域からの雇用創出につながります。

アンケートから

△西春別会場▽

○議会は町政の監査役として議員が活動しているが、一部の議員を除いて勉強不足が見ら

れます。もう少し町政の業務について深く勉強していただきたい。

当町の名前が議員によってまちまちである。

人間の名前も一つしかないのと同じで、市町村の名前も一つだと思っ

正しい名前を呼んで町民に周知していただきたい。

○昨年の議会報告会は「ガツカリ」という印象だったが、今年の議会報告会は来てよかった。

とても勉強になりました。

○内容が大変分かりやすく説明され、報告書も文字が大きく、見やすく、説明内容を見直しやすい。

○町議会は深く討議を経ていることと思いますが、議員のみの討議だけではなく、町民の意見をよく聴いて、その上で決定するようにしてほしい。

町理事者から提案され議決が急がれることもあるかもしれないが、時間をかけて町民を含めて審議するような経過を経てから決定するようにしてほしい。

△別会場▽
○本来、議会から資料

に基づく説明をいただき、それに関する質疑応答、そして報告以外での質疑応答、この形だと思えます。

白紙委任の話から、個人名が出たり、個々の議員の回答を求めたり、質問とは思えない内容でした。

公の場での発言として非常に問題があったと感じています。

町民を代表し活動されている皆さんが、まるで被告席で尋問を受けているように感じて、非常に不愉快な気持ちになりました。

司会者は、この場での発言にそぐわないと判断し、制止を求めてほしかったです。

町民個々に行政・議会に意見があるのは当然ですが、賛成多数の原理で、決まったことには全力で取り組むべきだと思います。

○議会からの説明は簡

単にして、質問を多く聞いてほしい。

○執行者と立法者の違いや役割をしっかりと

○個人の発言時間を制限して、多くの人が発言できるように工夫してください。

答弁も短く。

○発言者の数が昨年より多く、いろいろな意見が聞かれてよかったです。

○各委員会の報告や議論も大切だが、将来に向けたビジョンについて、もう少し見える会になるといいと感じる。そのためにも、圧倒的に参加人数が足りないので。

人を呼ぶには報告会のプレゼン方法について工夫が必要と考える。もつと広く多くの目を入れた報告会としてほしい。

平成25年度 各会計決算を審査・認定する

第4回定例会では、決算審査特別委員会（西原浩委員長）の報告を受け討論採決の結果、一般会計は賛成多数、ほか5特別会計・2公営企業会計は全会一致で認定しました。以下概要について報告します。

平成25年度 各会計決算

	歳入(収入)	歳出(支出)
一般会計	161億4674万円	156億9718万円
国民健康保険特別会計	25億7286万円	25億7102万円
下水道事業特別会計	5億6711万円	5億6695万円
介護サービス事業特別会計	9億277万円	9億261万円
介護保険特別会計	8億7935万円	8億5747万円
後期高齢者医療特別会計	1億2741万円	1億2739万円
町立別海病院事業会計 [※]	18億4454万円	19億30万円
水道事業会計 [※]	6億9805万円	4億6620万円

※事業会計については収益的収支の決算です。数字は千円以下を切り捨てしてあります。

決算委員会報告

一般会計3億7000万円の黒字決算

一般会計については、歳入歳出実質収支額で約3億7千万円の黒字決算となっており、経費節減意識のもとで、実質黒字に収め、将来の財政需要に対応するために、財政調整基金

の積み立て、また建設が計画されている生涯学習振興基金の積み立てに努力されていることは評価されます。町税の収納環境は厳しい状況が予想されますが、公正・公平な負担と税収確保のため、一層の努力を期待します。

歳出に関しては、外部委託の推進や指定管理者制度の活用、公募型補助金の導入などに取り組み、歳出の抑制に努められていますことは評価できます。持続可能な一次産業を発展させていくためには、環境に調和した農業・漁業を構築していくことが大切です。畜産環境条例、河川環境条例のもと、環境に配慮した施策の展開を期待します。

特に、家畜ふん尿利活用においては、町独自の仕様が確立されることに期待をします。今後一層、事業の選択と事務の効率化を図り、第6次総合計画を基本に、「笑顔あふれる豊かさ実感のまち」を町民との協働により作り上げるよう切望いたします。

反対

中村忠士議員

新酪農村事業に関する検証や反省が極めて不十分である。

国営事業で整備された施設の管理状況の把握や、利用農家の意見聴取などがなされていない。

バイオガス発電施設における原料調達の見通しや肥料となる消化液の検証不足など不明な点がある。

研修牧場において放牧酪農の方向性が示されないまま経営している。

町内の森林率向上の具体的施策が示されていない。

別海町ふるさと交流館に係る弁護士委任業務委託料に関する経過の説明が不十分である。以上を指摘し反対討論とする。

賛成

戸田憲悦議員

近年、地方自治体における財政状況は、大変厳しい状況にある。このような中、昨年を上回る約156億円の歳出額であり、そのうち53億円を超える主要な施策事業を実施しながら、実質収支は約3億7千万円の黒字となったことは、健全な財政運営と考える。

個別の予算執行内容は、人件費・公債費の削減をはじめ、各分野における経費削減に取り組むなど、関係法令に従い適正に執行されており、財政調整基金へ積立を行うなど努力は評価される。

今後においても財政の健全化に配慮し、積極的な施策の展開を望み賛成討論とする。

一般会計決算に対する討論

(賛成14名 反対2名)

第4回 定例会

12月9日～12日開催

第4回定例会は、12月9日から4日間の会期で開かれました。審議のようすをお伝えします。

今回の補正予算に関する事業・経費名・補正額および予算総額は右表のとおりです。歳出では、暖房用燃料費の一部を助成する福祉灯油費、尾岱沼漁港施設整備費、テレビ北海道中継局整備費などが計上されました。平成26年度人事院勧告に伴う議会議員、特別職、教育長などの期



平成27年度中に中標津局の開局が予定されている

テレビ北海道開局に 1389万円

末手当の増額、また職員員の給料・通勤手当などを4月に遡って増額しました。歳入では税込の増額

どにより、財政調整基金からの繰入を減額しました。また、10月8日の臨時会において、ふるさと交流館指定管理施設と管理費として、1330万円を計上しました。

平成26年度 補正予算概要

■一般会計の主な補正（歳出）	
○デジタルテレビ中継局整備事業	1389万円増額
○社会福祉施設整備事業	3117万円減額
○後期高齢者医療広域連合関係経費	1144万円増額
○本別海へき地保育園改築事業	1474万円減額
○各へき地保育園経費	1933万円減額
○家畜ふん尿貯留施設整備事業	1209万円減額
○農地・水保全管理支払交付金共同活動支援交付金事業	3002万円増額
○水産物産地市場衛生管理高度化施設整備事業	1200万円増額
○社会資本整備道路交付金事業	1240万円減額
○職員経費	2850万円増額
■一般会計の主な補正（歳入）	
○町民税 個人分 現年度調定額	8102万円増額
○ 法人分 現年度調定額	2141万円増額
○保育園建設事業債	1640万円減額
○漁港整備事業債	1010万円増額
■下水道事業特別会計の主な補正	
○漁業集落施設管理経費	91万円減額
○職員経費	13万円増額
■介護保険特別会計の主な補正	
○老人保健施設設備整備事業	111万円減額
○老人保健施設改修事業	221万円減額
○老人保健施設運営経費	211万円減額
○職員経費	360万円増額



建設が進む特別養護老人ホーム

◆根室中部3号主要幹線改良舗装工事
簡易公募型指名競争入札により、高玉建設工業(株)が落札しました。契約金額は、1億1016万円です。



上田 茂さん

◆教育委員の任命
任期満了に伴い、上田茂さん(西春別駅前)が新たに選任されお同意しました。任期は4年間です。

委員の任命に 同意しました

◆教育委員の任命

**条例を一部改正
しました**

- ◆別海町議会議員の議員報酬額及び費用弁償等に関する条例
- ◆特別職の給与及び旅費に関する条例
- ◆教育長の給与及び旅費並びに勤務時間に関する条例
- ◆別海町職員の給与に関する条例
- ◆町有乗合自動車の運行等に関する条例

最終停留所を東公民館に改めました。

◆国民健康保険条例
出産育児一時金そのものを増額し、町長が加算できる額を減額に伴い改めました。

◆町立保育園設置条例
定員を70名から85名に変更するとともに引用している法律改正に伴い条文を改めました。

指定管理者の指定を承認しました

- ◆別海町地域情報通信施設(21施設)
- ◆マルチメディア館(株)オーレンス
- ◆町営畜牛育成牧場(有)別海町酪農研修牧場
- ◆資源循環センター(別海バイオ株)

3年間、指定管理者を指定しました。

◆地域会館および福祉館(28施設)

◆別海町交流館(ぶらと)別海町商工会

◆尾岱沼ふれあいセンター

◆尾岱沼漁港コミュニティセンター

◆野付半島ネイチャーセンター
(株)別海町観光開発公社



オーレンスに指定管理されるマルチメディア館

◆別海町水産物保管施設
別海漁業協同組合
いずれも平成27年4月1日から継続して平成32年3月31日までの5年間、指定管理者を指定しました。

国・道に意見書を提出しました

◆新たな高校教育に関する指針の見直しを求める意見書

提出者 中村 忠士 議員
他4名

道立高校は、10年間で35校統廃合されました。このまま配置計画が進めば、地域の高校がなくなり通学時間が長く課外活動も充分できなくなりそうです。今求められているのは指針を見直し、地域の高校として機能を果せる施策の実現です。少人数学級を実施し、機械的に統廃合を行わないことを強く求めます。

◆義務教育段階の特別支援学校(分校・分教室)の設置を求める意見書

提出者 木嶋 悦寛 議員
他4名

根室管内の障がいのある程度が比較的重い児童生徒は、家庭から離れ寄宿舎生活を送るか、地域の特別支援学級に通うかの選択を迫られてきました。それもかなわない重度の児童生徒は、週に2時間から4時間の訪問教育を受けるに留まり、学校に通うことすらできません。障がい者権利条約が批准された今、放置できない喫緊の課題です。

◆農林漁業用燃油に係る軽油引取税の免税措置の堅持を求める意見書

提出者 安部 政博 議員
他5名

我が国では、円安や産油国をめぐる情勢不安などで軽油価格が高騰し、農村漁業者は厳しい経営状況に陥っている。経営安定を維持するため軽油高騰対策の充実強化を図るとともに、軽油引取税の免税措置を堅持するよう強く求めます。



漁業においては特に燃油の占める割合が高く、安定が求められている

別海町ふるさと交流館 指定管理へ

旧別海町交流センターについては、産業建設常任委員会、全員協議会で説明を受けました。条例制定、指定管理者の指定の経緯をお知らせします。

別海町ふるさと交流館 設置条例制定

(第3回臨時会 7月31日)

条例制定の 経過と背景

旧別海町交流センターは、平成20年12月に条例から削除され、平成21年7月から民間業者である(株)郊楽苑に賃貸され運営していました。しかし、5年が経過し民間の力だけでは経営を持続させていくことは困難であると判断し、公の施設に戻すという提案が町から示されました。

議会の審議の様子

質疑や反対討論の中で、賃貸していた5年間の総括がされていないのではないかという意見、また、議会はきちんとチェックする責

別海町ふるさと交流館 指定管理者の指定議決

(第4回臨時会 10月8日)

議会の審議の様子

任がある、町の考え方の説明が不十分であるなどの意見が出されました。

質問

賛成意見として、10年間の保全計画も示された。経営を存続してほしいと町民も期待している、あまり経費がかからない形で進めてほしいという意見が出され、賛成多数で条例が制定されました。

旧交流センター検討委員会から報告書が出ているが、町としてはどのような検討をしたのか。

答え

その後、指定管理者の公募が行われ、3社の申請がありました。9月24日に指定管理者選定委員会が開催され、収支計画書、業務報告書などの書類審査や面談が行われ、(株)郊楽苑が選定されました。

指定管理者の公募

検討委員会では、いろいろな提案がされましたが、最終的には一つにまとまった結論が得られませんでした。指定管理料算定の調査委託の結果、今ある施設の全業務(入浴・宿泊・レストラン)を行う形で公募しました。

質問

選定基準の配点はどのように定めたのか。

答え

入浴施設や旅館業などの類似施設を公の施設としているところを参考にして、点数基準を定めました。

質問

まきボイラーに関して、指定管理までに町のものとするところがあるが現在どのような状況か。

答え

現在、(株)郊楽苑が農水省に無償譲渡の手続きを行っています。

質問

議会では附帯決議をして協力してきた。第3セクターを民間化していくのは町長の公約ではなかったのか。

答え

当時、厳しい財政状況の中では、あれだけ公費をつぎ込んで維持することは不可能と考えました。

賃貸で5年間経営しましたが、赤字の中で限界であります。町民などの憩いの場

福祉の観点、他町村との交流を図るためのおもてなしの場として重要な施設と考え、指定管理制度の導入に踏み切りました。



(株)郊楽苑が指定管理者となった別海町ふるさと交流館

議案の審議と結果

第4回臨時議会 公の施設に係る指定管理者の指定に関する討論

(賛成10名 反対6名)

反対 中村忠士議員

旧交流センターについて
検討委員会で議論されたこ
とが、町民や議会に充分に
情報として提供されていな
い。

また、選定の仕組み、特
に点数配分についても理解・
納得のいく説明がなかった。
さらに、今後の利用状況
など将来性が見える説明が
ない。

賛成 安田輝男議員

指定管理者選定にあつ
ては、客観的かつ詳細に
渡って議論した結果と理
解している。

今日に至るまで、町は
検討委員会を設置するな
ど、充分議論する努力を
重ねてきた。
今後、町民の期待に応
えるべく施設運営がされ
るよう要望する。

第4回臨時議会 平成26年度一般会計補正予算の討論

(賛成10名 反対6名)

反対 中村忠士議員

指定管理に至るまでの町
側の説明責任が極めて不十
分だ。

別海町自治基本条例の基
本理念に基づき、情報公開
に努めること。

また、町民や議会に対し
てそれぞれの役割と責任を
果たす配慮に欠けている。
以上のことから、補正予
算に反対する。

賛成 今西和雄議員

今日に至るまで、多く
の議論を重ね、指定管理
者の決定に至った。

それを受け、本補正予
算は、ふるさと交流館の
新スタートに繋がる。

皆さんの交流の拠点と
して利用できるようさら
に内容の充実を図ってい
くべきだ。

各議案の採決結果

		木嶋悦寛	松壽孝雄	森本一夫	今西和雄	西原浩	沓澤昌廣	小林敏之	安部政博	瀧川榮子	山田信	松原政勝	戸田博義	中村忠士	戸田憲悦	佐藤初雄	安田輝男	渡邊政吉	採決結果
議案	第4回臨時議会 (10月8日)																		
	公の施設に係る指定管理者の指定	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○	●	●	●	○	○	○	○	可
	平成26年度一般会計補正予算	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○	●	●	●	○	○	○	○	可
	第4回定例会 (12月9日~12日)																		
	平成26年度一般会計補正予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	平成26年度下水道事業特別会計補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	平成26年度介護サービス事業特別会計補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	平成26年度水道事業会計補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	議員報酬、費用弁償に関する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	特別職で常勤職員の給与・旅費に関する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	教育長の給与・旅費・勤務時間に関する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	職員の給与に関する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	町有乗合自動車の運行に関する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	国民健康保険条例の一部改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	町立保育園設置条例の一部改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	町立へき地保育園条例の一部改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	町営畜牛育成牧場の設置・管理に関する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	工事請負契約の締結	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	公の施設に関する指定管理者の指定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
	平成25年度一般会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○	○	○	可

○原案賛成 ●原案反対 ※議長は可否同数の場合に決裁権がある

一般質問とは、行政全般について議題とは関係なく議員主導で政策論議できる仕組み。質問内容は事前に通告する必要があり、定例会でのみ行える。持ち時間は一人60分となっている。

町政の こころが聞きたい

第4回定例会では2日目(12月10日)に3議員が一般質問をしました。
各議員の質問項目とその内容を要約して掲載します。
詳しい議事録は町のホームページに掲載しています。

■ 中村 忠士 議員……………13

- 1 子どもの貧困対策の現状や計画は
- 2 教員の長時間勤務の改善対策を
- 3 介護施設の運営継続に町の支援を

■ 木嶋 悦寛 議員……………14

- 1 子ども・子育て支援新制度により児童館未設置地域に
放課後児童クラブを

■ 瀧川 榮子 議員……………15

- 1 乳幼児等医療給付事業の拡大実施についての考えは
- 2 奨学金貸付の償還減免対象の拡大を

議会広報モニターインタビュー

一般質問の傍聴に訪れた議会広報モニターの丸山勝子さんにお話を伺いました。

広 報… 傍聴された感想は？

丸 山… 議場へ来たのは初めてです。
議会広報モニターになったおかげで、議会を傍聴する機会に恵まれましたが、議会に来たことのない人には少々敷居が高く感じます。また、わざわざ来るのには面倒さも感じます。
質問する議員と町長や職員のかたのやりとりは、初めて聞く者にとって、言葉など難しいものが多くわかりづらいという印象でした。
あと、議会傍聴の方が少ないことに驚きました。もっと関心が高いと思っていましたから意外でした。
傍聴者がたくさん来てくれるような議会になるといいですね。

広 報… 議会だよりを読まれた感想は？

丸 山… 年4回の発行ということですが、毎回楽しみにしています。
写真などによって、状況がわかりやすく、読みやすいと思います。

広 報… ご協力ありがとうございました。



丸山勝子さん

中村議員

子どもの貧困対策の 現状や計画は

町長 現行制度の活用を図るとともに
計画の検討をする

質問

厚労省の調査では子どもの貧困率が16・3%と過去最悪となった。「子ども貧困対策の推進に関する法律」では、子どもの貧困に関する調査、研究その他必要な施策を講じることを地方自治体の責務として明記している。当町の子どもの貧困対策に関する現状や今後の計画は。

水沼町長

現在、児童扶養手当

制度、要保護・準要保護制度、保育料減免、ひとり親家庭への福祉牛乳支給、貧困家庭へのカウンセリングなどを行っている。今後、現行の制度の十分な活用を図っていくことはもちろん、道の計画の策定状況を踏まえて、地域の実態に則した計画をしっかりと検討していきたい。

真籠教育長

経済的に困難と認められる児童・生徒に対し、就学援助として、学用品、給食費などの助成を行っている。来年度から幼稚園児の保護者に、所得の状況を勘案し、助成措置を実施する予定だ。

中村忠士議員



中谷教育部長

当町においても育児放棄などを含めた事案が発生している。関係機関と連携し、今後は包括的支援体制のあり方を検討していく。

教員の長時間勤務の 改善対策を

中村議員

教育長 事務作業の
負担軽減を進める

質問

経済協力開発機構（OECD）の調査で、日本の教員の勤務時間が加盟三十四か国中、最



お昼休みに仲良く遊ぶ子どもたち
(豊原へき地保育園)

長であることなど教育環境の問題点が明らかになった。

当町でも教育現場から聞こえてくる声の中に、長時間勤務や煩雑な事務仕事の問題、部活動や少年団活動に携わる先生方の悩みなど切実なものがある。調査や対策は行われているか。

中谷教育部長

管理職から時間外勤務縮減の取り組み状況などの聞き取りをしている。また、教育長が教員の生の声を聞く取り組みもしている。

真籠教育長

調査事務などが多いことは認識している。道教委などに調査の縮減を申し入れているがなかなか改善されない。回答できる調査につ

中村議員

介護施設の運営継続に 町の支援を

町長 介護職員養成に取り組み、
支援も検討していく

質問

官・民含めて現在ある介護施設は、一つでも欠けると町の介護施策に影響が出てくる。各施設が運営を継続できるよう、「人材育成」を含め、町としても支援していく必要があると思うが。

水沼町長

今年度も引き続き実施する。今後、安定した介護サービス提供が継続されるよう、介護職員の養成研修にしっかりと取り組んでいく。

竹中福祉部長

介護員初任者研修講座を昨年度実施し、12名が介護員の資格を取得している。

いては、調査票を学校へ送付せず、当委員会に対応している事案もある。事務作業の負担を軽減する取り組みを進めていく。

木嶋悦寛議員



**子ども・子育て支援新制度により
児童館未設置地域に、放課後児童クラブを**

福祉部長 新制度活用を前提に
協議し進めたい

放課後児童クラブは現在児童館を持たない地域からの強い要望があると聞く。
新制度を活用し、来年度からのスムーズな運用が図られるべきと考ええるが。

竹中福祉部長

新制度では、地域子ども・子育て支援13事業に放課後児童クラブの設置検討が求められており、別海町子ども・子育て支援事業計画で位置づけるとしている。

現在、未設置の地域からの設置要望があることは承知している。課題を整理し、新制度の活用を前提に、福祉部と教育委員会が情報共有を図りながら、PTAや町内会とも協議し進めたい。

質問

子ども・子育て支援新制度(以下新制度)が、来年度からスタートする。

いと言われている。24時間保育は貴重な人材確保につながると思われる。

町立別海病院の院内保育所を、新制度の事業所内保育所として、必要に応じ地域に開放する用意はあるか。

佐藤病院事務長

院内保育園は、20名程度の利用者を想定して建設したが、現在は乳幼児など28名を受け入れている。

新制度での事業所内保育園は、定員が20名の場合、地域枠として5名以上の受け入れが必要となるが、現状から、新制度への移行は予定していない。

質問

酪農業における子育て環境の充実が求められている。

搾乳時間帯や通園の支援など、後継者不足からの離農に歯止めを



来年度からスタートする子ども・子育ての新制度よりよい運用が求められる

竹中福祉部長

当町で病児保育を実施している施設は今のところない。

町立保育園を例として、園児の体温が38度になった段階で、迎えの要請をしている。

高いニーズは認識しているが、専用スペースや保育士の確保など町単独での事業所開所は、難しい状況である。

新制度には、ファミリー・サポート・センター事業がある。子育て中の保護者を会員とし、援助を受ける者、行う者の両者が相互援助活動を行う事業だ。

この事業の活用の可能性について検討していきたい。

質問

病児保育について、現状と今後の方向性は、

質問

町立幼稚園の認定子ども園への移行の際に、

3号認定子ども(保育を必要とする3歳未満児)の受け入れを、町はどのように考えているか。

真籠教育長

町立の幼稚園3園が認定子ども園移行により保育所の機能を持つこととなるが、受け入れ児童により、要件が大きく異なっている。

例えば、食事は2号認定子ども(保育を必要とする3歳以上の修学前児)の場合は、外部搬入が可能だが、3号認定子どもを受け入れる場合は自園調理が必要となる。

また、実態として、乳児室、ほふく室の設置が必要となることや、保育士の確保の問題など、3号認定を受け入れのためには、乗り越えなければならぬ課題も多くある。

議員 瀧川 乳幼児医療給付事業の 拡大実施についての考えは

町長 実施時期について

検討していく

質問

本年度の行政執行方針で、子どもは社会の希望であり、健やかな子育てを支えることは、将来の担い手育成の基礎をなす重要な未来への投資であり、地域全体で取り組むべき最重要課題の一つとした。

道内市町村では乳幼児医療給付事業の拡大実施が進んでいる。状況の把握はしているか。

竹中福祉部長

平成26年4月1日現在、全道179市町村の内、139市町村と把握している。拡大内容は高校卒業までの助成が13市町村、中学校卒業までが72市町村、小学校卒業までが17市町村、所得制限の撤廃などその他の助成が37市町村。拡大助成を行っているのは、当町を含め40市町村だ。

質問

拡大実施に向け動く理由として、少子化抑制・子育て支援の目的もあると考えるが。

竹中福祉部長

有効な施策の一つと考えている。

瀧川榮子議員



保健センターで健診を受ける子どもたち

質問

市町村によって給付対象の範囲が異なることへの考え方は。

竹中福祉部長

全道一律が望ましいと考えるが、自治体の財政状況や産業人口構成の違いにより、助成拡大に対する施策も異なっている。

質問

国や道の動きを待たず、市町村単独で拡大

水沼町長

助成拡大事業は自治体の単独事業となっており。国庫負担の対象外となっており、地方の努力が報われないと
言う意見も出ている。医療費助成拡大については、国や道の制度で実施されることを強く望んでいる。

質問

北海道では半数以上の自治体

が拡充実施へと動いている。子どもの健康を守ることは行政執行方針の言葉を借りるなら、未来への投資であり、未来への希望につながる。町として事業

拡充の考えはあるか。

水沼町長

一年ほど前から道内自治体の取り組み状況を調べ検討してきている。政策の効果や財政への影響などを考え、実施時期について検討していく。

奨学金貸付の償還減免 対象の拡大を

教育長 貸付および減免のあり方について積極的に検討する

町では奨学金償還減免の項があり、借りたい側にとって助かる制度だ。減免された人数はどれくらいになるか。

中谷教育部長

規則など説明しているが、減免申請された方は今まではいない。

質問

減免対象拡大による応援は、町に帰ってくる若者への大きな力につながるかと考えるが。

真籠教育長

町が必要と認められた業務に3年以上従事した時、3年を経過した日から以降従事した期間に応じ、納入額を減免する事ができるとしている。

減免を適用する職種は設定していない。

奨学金の貸付および減免のあり方について、積極的に検討していく。

質問

先進国では大学の授業料が必要ない国もある。

各常任委員会の うごき

第3回定例会から第4回定例会の間に行われた各常任委員会の活動について概要をお知らせします。

総務文教 常任委員会

委員長 松原 政勝

生き抜く力アップ プロジェクト事業

本年度、町教育委員会で「生き抜く力アッププロジェクト事業」を進めています。

次世代を担う子どもたちが、自立して社会生活ができる「生きる力を育む」に主眼を置き、信頼される学校づくりを目指しています。

1 当町の現状と課題

(1) 知る確かな学力

当町の学力については平成26年度全国学力・学習状況調査の結果、一部を除き全道平均を越え、ほぼ全国平均にあります。

しかし、授業時間以外の勉強時間や読書の時間が全国平均を大きく下回っていることや、学力低位置層の底上げ

が課題となつています。

(2) 徳く豊かな人間性

将来の夢や目標を持つている子ども、人の役に立つ人間になりたい、と思う中学生が少ない傾向にあります。

自分らしい生き方を実現するための育成が必要となっております。

(3) 体く健康・体力

テレビ、ビデオを見る時間は減つていますがインターネットやゲームの時間が増えていきます。

体力では、柔軟性や持久力に課題があり、他町に比べて肥満度が高い傾向で、家庭との連携が重要となっております。

2 事業の内容

学力または学習に挑む意欲や、生活力の向上が著しい他市町村の取り組みを調査・分析・研究・報告を行い、別海の地域に合った「教師力の育成」「学校力の

構築」を目指し、組織的に取り組むとの説明を受けました。

本プロジェクトに関連した事業についてはその都度担当より報告を求めていきます。

債権管理条例制定に むけて

1 税外債権管理の現状

当町には住民税など町税以外の税外収入があります。(身近なところでは公営住宅の家賃や病院の診療費など)

税外収入は、負担金、使用料、手数料、貸付金など多種多様であり、担当も多課にわたることから、その取扱いは役場内で統一されてないのが現状です。

町の債権のほとんどは発生した年度内に支払っていたにすぎませんが、一部について未納になることがあります。

資力があっても納付されないケースもあり、



地域に披露された中学生の合唱
豊かな人間性が培われている
(中西別子どもたちの成長をみる会より)

納付している方との公平性を損なうばかりでなく、町の財政運営にも大きく影響を及ぼします。

2 未収金の現状

平成25年度決算における未収金は、全会計合計で7119万円(平成24年と比較して609万円増)となっております。

3 債権管理の取り組み

町の債権はその発生

原因の違いから根拠法令が異なり、様々な事務処理や対応が求められます。

そこで「別海町債権管理条例」を整備し、債権管理の公平・公正を確保し、効果的な滞納の予防や債権回収に向けた取り組みを行っていくことです。

委員会としては、条例の整備を速やかに実施し、適正な債権管理に努めるよう担当に要望しました。

**福祉医療
常任委員会**
委員長 小林 敏之

子育て支援対策

幼稚園および保育園など新制度に該当する2私立幼稚園は、4月からの新制度に向けて準備を進めており、すでに入園募集を開始しています。

新制度下の公立施設の運営形態は、移行可能な施設を「認定こども園」とするが、移行時期や、職員体制、給食提供などの課題があります。

しかし国は、公立施設を平成27年度から自動的に新制度に移行させるとしており、町立幼稚園、保育園も新制度へ移行することとなります。

利用料は現在、町独自の料金設定ですが、新制度では所得状況に

応じた負担となるため、子ども・子育て会議の意見やこれまでの私立と公立の利用料の違いを踏まえた利用料案を作成し、「保育園運営委員会」に諮問し、運営形態とともに確認いただきました。

利用料の基本的な考え方は、国の基準の50%に設定しましたが、これまでの最上限度を上回る階層の料金は軽減措置を設け、3年目に正規の利用料とします。

画 第四期障がい福祉計画

第三期障がい福祉計画が平成26年度で終了となるため、平成27年度から3年間の第四期障がい福祉計画を策定するものです。

各年度ごとの障がい福祉サービス、地域相談支援および地域生活支援の提供体制の確保に係る目標や、種類ごとの実施に関する事項

などを策定する予定です。

第四期障がい福祉計画では、

- ①施設入居者の地域生活への移行
 - ②入院中の精神障がい者の地域生活への移行
 - ③障がい者への地域生活支援
 - ④福祉的就労から一般就労への移行
- 以上の4重要項目を掲げています。

別海町高齢者保健福祉計画および介護保険事業計画

平成27年3月で計画期間が満了となるため、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、介護予防事業の充実と介護保険料の見直しを含め、地域包括ケアの構築を目指し計画を策定します。

所管事務調査

(11月12日 芽室町)

芽室町の子育て支援は、早くから子どもの権利に関する条例の制定や役場内に子育て支援課を設置し、①子どもの生きる権利②子どもの育つ権利③子どもの守られる権利④子どもの参加する権利の4項目を基に、関係団体と連携を図り、虐待などの早期発見と適切な救済をするための支援をしています。

平成27年4月から「子ども子育て支援新制度」が施行されますが、保育料は所得層を12階層に細分化し、独自の対応をしています。

また、保育所の運営にも指定管理制度を導入することで、保育料以外にも様々なメリットがでています。

育児ネットめむろや育児サークルは、Hugなど民間の子育て支援も町民の理解を得て各事業を展開しています。



芽室町の先進的な取り組みに聞き入る委員

**産業建設
常任委員会**

委員長 安部 政博

**橋梁整備による長寿命
化計画の進捗状況**

別海町には219か所の橋があります。計画的な整備により長寿命化を図るため、塗装など橋梁の老朽度合に応じた工事が進んでいます。平成26年度は4橋梁、次年度も4橋梁の整備が計画されています。



塗装を終え長寿命化が図られた橋（美原地区）

**根釧酪農ビジョンの
策定進む**

酪農を巡る情勢は厳しさを増しており、生産乳量の減少、伸び悩み傾向が続いています。ホクレンの発表では、生乳受託乳量は11月に一部回復傾向が見られるものの、前年比割れが続く、根釧地域の生乳生産再生に向けた取り組みが焦点になると報じています。

この根釧の喫緊の課題の解決と、新たな可能性を検討するため「根釧ビジョン」を策定することになりました。

市町村長・JA組合長・釧路根室振興局が構成員となり「新たな根釧酪農構想検討会議」で、ビジョンの骨子作りに取り組んでいます。

さらに乳業など農業関係団体や、商工会、銀行などの経済関連団体からも幅広く意見を聞きます。

ビジョンの方向性に基づき国などへの要請活動の実施、振興局独自事業による施策の推進や、地域づくり総合交付金により、地域の取り組みを支援することとしています。

本年2月の成案の承認を目指し作業が進められています。

委員会としても動向を注視し、調査を続けることにしています。

と畜場建設の動向

この件については、前号で標茶町に建設することと進んでいる旨を報告したところですが、平成27年度事業の申請について断念をせざるをえない状況となりました。

理由としては、排水

に係る流域関係団体との協議や、製品の販売戦略の検討にお時間を要するため、根釧のJA組合長ならびに標茶町の総合的な判断によるものです。

今後、課題の解決を急ぎ、少しでも早く施設を完成させることが関係団体により確認されています。

**別海町バイオガス発電機
工事の進捗状況**

のことから堆肥の粉碎機械の大型化が必要となりました。しかし、堆肥が多ければ、ガスの発生量の増加が実証されていることや、敷料の引き合いが多いことから、農家負担の増にはならないとのこと。また当委員会からの指摘事項であった70℃の殺菌槽を全量通すための工事も追加されています。

工事の進捗状況は、一部に遅れがあるものの2月中旬の完成に向けて、ほぼ順調に進んでいます。84戸から調達する原料が調査の結果、当初の予想より堆肥が多く（85%）、こ



今年2月の完成をめざし着々と工事が進むバイオガス発電施設

なごやかな雰囲気の中で 第23回札幌・別海ふるさと会開催

(10月18日 札幌市)

懐かしい会員との再会、今回は53名の参加者でした。

奥田会長の挨拶に始まり、磯田副町長の挨拶、会場は友好的な雰囲気になりました。26年度の決算と事業報告があり、郷土別海町と人的交流、ふるさと製品のPR、販売の協力などが報告されました。

その後の親睦会では、会員の皆さんと近況報告など、有意義な時間を過ごりました。

今後は、もつと多くの町民の皆さん、さらには若い世代のみなさんの参加をつのり、交流の拠点として、札幌・別海ふるさと会の益々の発展を願っています。また、今回「大地みらい信金」が、根釧地域の情報発信源として札幌に進出の報告がありました。

ふるさと会で挨拶する奥田会長



さらにふるさと会にも入会、地域との連携を密に、地域活性化の後押しもとの話があり、大変心強く受け止めました。
(安田副議長)

第12回友好都市サミット 「友好の風、北から南から」開催

(11月28日 高知県四万十市)



友好都市サミットで共同宣言書が確認された

友好都市サミットが、枚方市・名護市・四万十市・別海町が参加し盛大に行われました。

今回のテーマは「友好の風、北から南から」産業界連携を活かすこと。当町では、平成23年7月に開催しています。サミットの前日には、参加した各首長・議長をはじめ、地元の関係団体との交流会が開催され、有意義なひとときをおくりました。
(渡邊議長)

した特色あるまちづくり」でした。それぞれの市・町が事例を発表し、意見交換を行いました。お互いの特性をいかした街づくりを進めるために、

友好の輪をさらに深めて 友好都市視察・交流

(11月19日～21日 枚方市)

初日は、9月に完成した新病院の産婦人科・小児科・感染病棟を視察しました。

特徴的なものとして、外来窓口において受付コンシェルジュを配置し、迷うことなく受診できる工夫がされていました。さらに、院内の食堂とコンビニを指定管理にして、経営の効率化を図っていました。

夜は枚方市議会議長と市長を表敬訪問し、昨年当町で開催された「菊と緑の会」の30周年記念式典訪問のお礼と懇談を行いました。その後の交流会では、友好都市の人事交流、今後の目標など、活発な議論もありました。二日目は、友好都

市物産展を視察し、経済交流を深めました。当町のブースには常時買い物客があり、特に中春別農協の「サイコロステーキ」は大変賑わっていました。今回の視察で得た様々なことを、今後どのようにに議会活動に反映させ、実行力のあるものに仕上げるかが、今回訪問の意義と考えます。
(松原議員)



市立ひらかた病院の感染病棟で説明を受ける議員

志を
受け継ぐ

安心でおいしい水を守っています

菅野孝一郎 かのこういちろう
(株)ウォーターエージェンシー



取水した後も豊かな流れが続く西別川

弊社は、平成19年4月1日から別海町の水道施設における維持管理業務を受託しております。主な業務は、水源から配水池までの施設の維持・管理ですが、水道メーターの検針など町民の皆様と接する業務も行っています。電気設備の点検や日々の水質検査など専門的な業務のほか、冬には川を歩いて取水口に詰まった藻を取り、夜中に設備の故障が発生した時には状況を確認して処置します。業務を受託して以来、地震や台風など困難な状況もありましたが、別海町の水道に関わってきた諸先輩にもご協力いただき、今日まで滞りなく業務を遂行しています。水道事業は、24時間途絶えることなく町民の皆様へ安全・安心な水をお届けするための重要な業務であり、弊社はその責務の一部を担っています。これからも水道施設の安定的な維持・管理を通して、町民の皆様にも安心して水道を使用していただけよう努力してまいります。

知床らうす深層水事業を学ぶ 根室管内議員研修(10月25日 羅臼町)

羅臼町は道の認定を受け、環境・衛生管理型漁港の整備を進めています。

全天候型の埠頭整備と深層水(200m以上深)で洗浄することにより、ハサップの取得ができるそうです。

「知床らうす深層水」の商標登録をして産業振興を進めています。(西原委員)



2階は駐車場となっている羅臼漁港

編集後記



議会の姿を伝えるための議会だより。インターネットでの議会中継など、伝える力は飛躍的に進歩しても、やっぱり紙はいい。もちろんいろいろあっていいと思う。でも、紙が持つ安心感、活字の力は絶大である。あとは弱者への配慮など、取り組むべき課題もある。広聴から広報へつなぐ役割。残された時間をしっかりと担っていきたい。

(木嶋委員)

携帯電話は車を止めて！冬道はスピードダウンと車間距離